

2022年8月10日

2022年度第1四半期決算説明会 質疑応答

沖電気工業株式会社

Q：第1四半期のサプライチェーン影響と営業利益は計画比でどのくらいか。

A：サプライチェーン影響は年間120億円の見込みに対して、第1四半期は32億円。年間全体では、大きく想定から外れてはいないが、調達状況は部材によりばらつきがあり不安定。営業利益は想定通りの着地。

Q：価格適正化の進捗について伺いたい。ソリューションシステム事業においても価格適正化は期待できるのか。

A：価格適正化は全社一丸となって取り組んでいるが、第1四半期の実績はほぼコンポーネント&プラットフォーム事業。ソリューションシステム事業は前期からの繰り越し案件における部材調達の混乱により、まだ実績は出ていないが、下期に向けて積み上げていく。

Q：ソリューションシステム事業パブリックソリューションの第1四半期実績は前期比マイナスであるが、今後伸びていくのか。また価格適正化について、パブリックソリューション関連の顧客に対する値上げ交渉は可能なのか。

A：パブリックソリューションは例年同様、下期偏重の計画である。計画の実現性は、入札案件の成否にもよるが、現時点では何とも言えない。また、価格交渉の可能性についてはお客様や案件内容次第になるが、環境は大きく変わってきている。しかしながら、入札案件においては難しい面もある。

Q：半導体等の部材不足について、具体的な状況を確認したい。

A：半導体等、特に海外系の部品において、供給にバラつきがある。またサーバー等の半製品についても納期遅延等が起きている状況。

Q：コンポーネント&プラットフォームのFA/半導体製造装置向けの好調は、今後も継続する想定なのか。

A：FA/半導体製造装置向けは、好調を維持する見込み。

Q：決算短信に営業外費用として、違約金約▲2.9億円が計上されていたが、具体的には何か。

A：ご迷惑をおかけした独禁法違反関連において、時効による引当金の戻り。

Q：受注残等、受注状況を四半期毎に開示して欲しい。また前年比で今の受注状況を確認したい。

A：受注状況の開示は検討していく。前期からの繰越案件が 200 億円程度の中で、第 1 四半期にて刈り取れている案件もあれば、在庫として出荷待ちの案件もある。受注残という観点では、想定した前期からの繰越案件、従来からの営業としての積み上げは想定通りのラインにある。

Q：4 ページ サプライチェーン影響の生産/売上影響に対応する売上高と、価格適正化の年間見込額を確認したい。

A：サプライチェーン影響の生産/売上影響に対する売上高は約 60 億円。内訳は 2 つのセグメントで大体半々。価格適正化の年間見込額は、詳細精査中。

Q：自動機事業の ATM 出荷台数について、国内、海外の第 1 四半期実績を確認したい。

A：国内銀行向け：第 1 四半期 420 台、上期見込 480 台

流通向け：第 1 四半期 730 台、上期見込 1,100 台

海外向け：第 1 四半期 450 台、上期見込 1,800 台

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。